

魚群の魚種判別調査

酒井明久・上垣雅史

◆背景・目的

当场では、琵琶湖におけるアユの資源水準の評価手法として、魚群探知機による魚群数の観測を実施している(湖中アユ魚群分布調査)。近年、ワカサギ資源の増加に伴い、魚群に同種が混在する可能性が指摘されているため、調査コース上に出現する魚群の魚種判別調査を実施した。

◆成果の内容・特徴

- ・調査は2009年1月29日の昼間に、沖島西方の水域で魚群分布調査コース上に位置するA地点(水深約30m)と、コース外でやや沖合のB地点(水深約50m)において、複数の目合いの刺し網を湖底に接するように設置し、魚を採捕することにより行った(図1)。
- ・A地点では、魚群探知機により複数の魚群反応がみられ(図2)、刺し網ではアユのみが採捕された(表1)。
- ・B地点では、魚群の反応はみられず、刺し網ではゼゼラのみが採捕された(表1)。

◆成果の活用・留意点

魚群分布調査コース上のA地点で観測された魚群はアユと考えられた。時期や場所を変えた調査データを蓄積することにより、魚群分布調査の精度を評価できる。

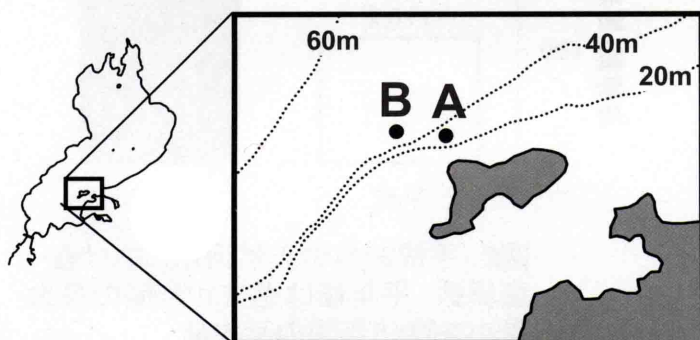


図1 調査地点

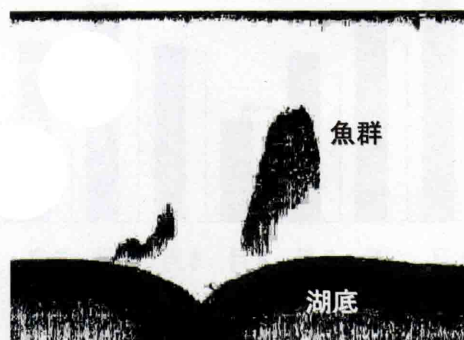


図2 A地点で観察された魚群像

表1 刺し網による魚群の魚種判別結果

調査日	地点	水深(m)	漁具設置時刻	刺し網			魚種	尾数	標準体長(mm) (平均±標準偏差)
				目合い	網幅 (m)	数			
2009/1/21	沖島西 A	27.0-28.5	11:40 ~12:40	28節	75掛 (0.8)	1	-	0	-
				26節	70掛 (0.8)	1	アユ	4	64.1±1.69
				24節	300掛 (3.8)	1	アユ	5	69.6±3.98
				18節	200掛 (3.4)	1	-	0	-
	沖島西 B	49.5-50.0	12:07 ~13:12	28節	75掛 (0.8)	1	ゼゼラ	2	47.0±4.41
				26節	70掛 (0.8)	1	ゼゼラ	4	49.2±1.88
				24節	300掛 (3.8)	1	ゼゼラ	7	51.8±2.62
				18節	200掛 (3.4)	1	-	0	-